

2022年度通常枠 草の根活動支援事業（全国）社会的困難者が役割と希望を再生するコミュニティ活動 助成申請応募団体 概要表

申請受付番号	1	2
事業名 (副題)	母と子の第一歩を応援する「シンママゼミ」	オルタナティブスクールひなたぼっこ
団体名	特定非営利活動法人シンママ応援団	特定非営利活動法人ひなたぼっこ
所在地	石川県金沢市	石川県七尾市
直接対象者	七尾市を中心とした能登地域に住む、経済的困難や社会的孤立感を抱えるひとり親、ひとり親世帯の子ども	七尾市を中心とした能登地域に住む、経済的困難や社会的孤立感を抱えるひとり親
事業概要	<p>金沢市を中心にひとり親支援活動を行ってきた中で、能登方面には告知等をしていなかったにも関わらず、当会へ「能登でも同じようなイベントをしてほしい」という声が届いている。これは氷山の一角であると思われる。これまで手が届いていなかった能登で、孤立感を抱えているひとり親が社会と繋がりエンパワメントしていく機会をつくることで、魅力ある住み続けたい地域づくりに貢献する。</p>	<p>(これまで取り組んできた事) NPO法人ひなたぼっこは2010年「お年寄りから赤ちゃんまで誰でも通えるデイサービス」として開設。フリースクールひなたぼっこと学童保育のルーツは、2017年に地域の親御さんの「小学校に上がる子供たちの夏休みが心配。預かってほしい。」という相談を受け、長期休みに10人程の子供たちの居場所として「異世代交流ひなたぼっこ」がスタート。子供たちが職員、お年寄りと一緒に料理体験、農業・自然体験を多く取り入れた活動でした。2020年4月より今のフリースクール（1500円/1日）と学童保育（10000円/1か月）を開設。フリースクール1人と、学童保育5人からスタートでした。現在はオルタナティブスクールひなたぼっこと改名し週2回（火・金）不登校生徒5名、学童保育6名で運営しています。コンセプトは「思いっきり遊ぶ」「お腹いっぱい食べる」です。</p>
	<p>1年目（2023年7月～2024年2月）： 交流+勉強会として「シンママゼミ」を開催し、対象地域のひとり親のニーズを探る（月1回、計8回：託児+プログラミング教室つき）／現地スタッフの確保／広報により地域の企業や団体と繋がる／行政支援とひとり親を繋ぐ</p>	<p>(強み・体制) フリースクールと学童保育は、併設されているデイサービスの職員が交代で対応して「お年寄りから赤ちゃんまで」を実践しています。また広大な農地を使い、無農薬で季節の野菜やお米を作っています。田畑の近くには古民家もあり、様々な自然体験をしながら1日を過ごせる環境です。</p>
	<p>2年目（2024年5月～2025年2月）： シンママゼミ継続（月1回、計10回）市の委託事業受託を目指す／親子でICTスキルアップ講座開催（月1回、計10回）／パソコンを組み立てようイベント開催（2回）／運営スタッフ・講師育成／様々なデジタルツールに触れられる子どもたちの居場所事業を開始（ひとり親家庭に限定しない）</p>	<p>(見えてきた課題・弱み) 利用料金が安くて採算性が合わず、専属のスタッフを雇用できません。経営的に今後の事業の継続が困難です。また、職員と子供たちの送迎や移動用の車両がありません。その為、農地や古民家が上手く活用できない状況です。</p>
	<p>3年目（2025年5月～2026年2月）： シンママゼミ継続（月1回、計10回）／親子でICTスキルアップ講座継続（月1回、計10回）／パソコンを組み立てようイベント継続（2回）／デジタル居場所事業継続、企業スポンサーの獲得を目指す／これまでの2年間の事業で得た受益者や企業のニーズから必要と思われるコラボ講座を増やす（英会話、不動産、内装、等）／地域の企業とママたち（他地域からの参加も可、ひとり親に限定しない）の就労マッチングイベント開催／子どもを対象とした地域の企業の仕事場見学イベント開催／地域のスタッフのみで運営ができる体制にする／地域の住民へのICTサポート事業（パソコン教室、スマホ教室等）を立ち上げ、資金源とし、ひとり親を講師として雇用する。</p>	<p>(課題を踏まえ本事業で実施する事) 子供たちへのサポートを強化する為に専属職員の雇用をします。そして車両を購入します。車両は、農地と古民家を活用した農業・自然体験などの移動手段に使用します。また、事業継続の経営的な安定を図る為、県内外の子供たちや家族を対象としたイベント時の移動手段にも使用します。</p>

2022年度通常枠 草の根活動支援事業（全国）社会的困難者が役割と希望を再生するコミュニティ活動 助成申請応募団体 概要表

申請受付番号	3	4
事業名 (副題)	ケアラーと被介護者（大切な人）を支え合う地域づくり活動「矢田郷ささえあいプロジェクト」	障がい者が地域の困りごとを解決する事業
団体名	矢田郷地区まちづくり協議会	一般社団法人ななお・なかのと就労支援センター
所在地	石川県七尾市	石川県鹿島郡中能登町
直接対象者	①七尾市民（介護の知識を学びたいケアラー、ヤングケアラー対象） ②介護・地域見守り等の専門職等（医療・介護職員、地域包括支援センター等の行政職員、民生委員等の自治会スタッフ） ③上記②の中からICTを活用した支え合い活動に前向きな専門職	当法人に通所する障がい者等
事業概要	①地域のケアラー、ヤングケアラーに対して、介護に関する学び、心情吐露を促すケアラー支援講座（学びの場）を実施。ケアラー、ヤングケアラーの介護に関わる心身負担の軽減を目指す	今の日本は、100人に3人はひきこもりの状態にある方がいると言われていています。七尾市であれば1500人弱いることとなります。その理由は様々で、それぞれ異なる経緯や事情がありますが、その実態が表面化されていません。誰にとっても安心して過ごせる場所や自らの役割を感じられる機会があることが、生きていくための基盤になります。まずは七尾に住む困っている方を様々な方法で吸い上げ発見し、そこから必要な支援を届けていきたいと思いました。
	②ケアラー、ヤングケアラー、被介護者と日常から関わり合い、支え合う専門職向けにケアラーに関する社会課題や地域での支え合い作りを学ぶ研修を実施することで、ケアラー、ヤングケアラーが暮らしやすい地域づくりの一端を担う。	一方で七尾市では荒れた竹林や耕作放棄地が目立っています。市が管理するのはシルバー人材派遣センターなどの民間企業に委託され管理されていましたが、個人で管理されているものについてはそのままになっていました。また、最近はシルバー人材派遣センターも人手が足りず対応が困難となっており、以前よりも管理されていない土地が増えています。そのため、当センターでは令和2年から市内にある福祉事業所と連携し、シルバー人材派遣センターが行えない作業を障害者とともにに行い、草刈り作業を中心に市の依頼にこたえてきました。
	③②の中から、ケアに特化した無料のコミュニケーションアプリを活用した、支え合いの地域づくりを実践。実際に被介護者、ケアラーを対象にして、ICTを活用した先進的アプローチの定着をその効果をつくる。	これらの流れを踏まえ、市の依頼だけではなく、個人で管理することが難しい土地を障害者が解決することができないかと考えたわけです。地域住民の困っていることをひきこもり者や障害者が解決する、その行為を仕事にすることで、収入を得ることができ、またまわりからも感謝され、なにより地域のために働くことができます。障害等があっても働くことができ、地域住民との触れ合う機会を作ることでもできます。何より、それら活動を通し、社会性をみにつけ、生きる価値を高めていくことができます。そういう活動を行っていきたくて考えています。